2026年（令和8年）2月 第88号

Feeling excited

“Dance with Heart”
We are burning with enthusiasm
in creating national art for the new era.
The Kikunokai Dance Troupe
Representative : Satoshi Hata

日本のおどり

発行：舞踊集団 菊の会
〒161-0031
東京都新宿区西落合 2-21-23
03-5983-6001（代表）

菊の会京都八瀬研修所
〒601-1254
京都市左京区八瀬野瀬町 10
075-712-8701（代表）
http://www.kikunokai.co.jp

Dancing from the heart

ご挨拶

舞踊集団 菊の会
代表 畑　聡

皆様におかれましては、
日頃より暖かいご支援を賜り厚く
御礼を申し上げます。
今年も更なる飛躍を目指しつつ、確かなる
歩みを一歩ずつ進め、「日本のおどり」を通じて
心と身体の健康に寄与し、少しでも社会のお役に
立てますよう精進を重ねて参ります。
どうぞ変わらぬご支援ご鞭撻を何卒宜しくお願い申し上げます。

APJ ASOCIACIÓN PERUANO JAPONESA

ペルー日系人協会 会長 伊芸ホルヘ

ペルー日系人協会を代表し、長年にわたり日本舞踊の振興に尽力されてきた舞踊集団菊の会の皆様に、心より御礼を申し上げます。

菊の会とのご縁は2015年以来、日本からの講師による定期的な訪問、対面式稽古、そして後にオンラインにてリモート稽古も開催し、ペルーの舞踊教室での継続的な育成など、持続的かつ模範的な活動が展開されてまいりました。そして継続的な文化交流を通じて、学校でのワークショップ、ペルー各地での文化キャラバン、アルゼンチンにて国際的な参加など、その活動範囲を拡大して、芸術的な成長が確固たるものとなりました。

このこれまでの歩みは、日本舞踊の普及における長年の努力と揺るぎない献身の象徴である、菊の会第50回発表会を祝うにあたり、特別な意味を持ちます。さらに、ペルーの菊の会舞踊教室が今年2026年に創立10周年を迎えるという嬉しい偶然も重なり、ペルー代表団15名が今回の記念すべき会に参加することは、二重に意義深い祝賀となります。

これはまた、畑道代先生の遺産が国境を越え、世界中に広がり続けていることを明確に示す例でもあります。

ペルーにおける日本舞踊の普及活動への継続的なご支援、ペルー日系人協会の行事への貴重なご参加、そしてこの芸術形態の存続と発展への多大なるご尽力に対し、畑　聡代表を初め舞踊集団菊の会の皆様に深く感謝申し上げます。

菊の会
サポーターズクラブ友の会
懇親パーティー

今年のスペシャルステージは
畑道代振付傑作集をご覧いただきます。
どうぞお楽しみに！

日時

2026年3月29日（日）　12:00開宴

会場

ハイアットリージェンシー東京
センチュリールーム（地下1階）

料金

22,000円

― 特別支援金のお願い ―

変化の激しい現代（いま）だからこそ、「日本の心を守り育てたい」
沢山の人の胸に響く舞台創りを目指す菊の会へ
皆様の更なる応援を何卒宜しくお願い申し上げます。

1口1,000円（1口以上）1口以上であれば金額は自由にお決め頂きいつでも受け付けております。

【振込先】
・郵便振替口座：00120-9-72751　舞踊集団菊の会
・三菱UFJ銀行：新宿通支店　普通預金 №2969751

【主催・お問合せ先】舞踊集団 菊の会 事務局
営業時間 平日10:00～17:00
03-5983-6001
菊の会

畑　聡代表が金曜赤坂座に出演

観客ナビゲーターの葛西聖司さんのインタビュー

昨年秋、10月17日、赤坂の黛ホールで開催された「金曜赤坂座」に畑　聡代表が出演、創作舞踊『うましの水』を発表されました。

この作品は命の源でもあり美しい自然の象徴でもある水をテーマにかつて畑道代振付により創作された作品を下敷きに、世界ではいま尚、清潔な水さえも手に入れる事の出来ない人々が生きる為に困難を乗り越え苦闘している現実を畑　聡振付により前段として加え、命を賭して水を得るために闘い続けた人々を、水の精が暖かく癒し、讃える作品としてリメイクされました。

プログラムの最後、小品集では『紅葉の橋』を踊られました。

『紅葉の橋』

『うましの水』（後半）

『うましの水』（前半）

1月25日
曳舟文化センター

第50回記念・菊の会舞踊教室発表会が開催
※南半球からペルー教室が参加！

現在、東京、千葉、埼玉、神奈川、茨城、群馬、そして京都に展開する22か所の舞踊教室で毎年開催され、第50回を迎えた記念の発表会は、昨年6か所で行われ今回がその掉尾を飾りました。

今回は発足10周年を迎えた南米ペルーから遥々海を越え15名のメンバーが海外から初めての出演を果たし記念の会を盛り上げました。

尚、本会には外務省の事業としてペルーでの海外公演を行った際に特段のご尽力を賜った元・在ペルー日本大使株丹達也ご夫妻も駆け付けて下さいました。

発表会での集合写真

特別奨励賞の授与式（ペルー教室）

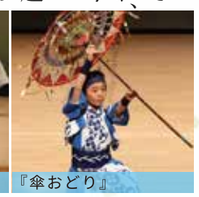
『石橋』

『宇和島さんさ』

『古城』

『花笠音頭』

『川の流れのように』


『傘おどり』

2026年（令和8年）2月 第88号

ズームアップで見せる日本舞踊

去る12月7日菊の会スタジオに於いて恒例のアトリエ公演が開催されました。

第1部
畑道代 振付
新邦楽『新一つとや』
村尚也 原案
畑　聡 脚本・演出
新作『喜舞劇・酒は飲め々々』

第2部
畑道代 振付
畑　聡 構成・振付
『故郷紀行・とうざいなんぼく』
が上演されました。

『新一つとや』

舞踊評論家
村　尚也

昨年師走7日、菊の会のスタジオ公演《躍れ日本の心》は、至近距離での日本舞踊が楽しめる企画。

序の『新一つとや』は、数え歌を取り入れた昭和期の長唄新曲だ。当会メンバーの清楚な舞いぶりは動く淡彩な日本画のようだ。1つは「ひとよ明くれば」2つで「二葉の松は」3つは「皆この日は」のように、数に言葉を掛け合わせ、日本舞踊で暦をめくるように、風物や行事を具象化して見せる。その言語遊戯が日本舞踊の特徴だから、それを聞き取りながら、振りや形の組み合わせを楽しめれば、破綻のない序は、料理で言えば先付けやオードブルとしての色や香気となる。男女9人がスタジオ所狭しと踊りこむが、行儀の良さがカンバスいっぱいの絵画に収まる。

『佐渡おけさ・相川音頭』

『かっぽれ』

続く二曲目は新作の喜舞劇『酒は飲め々々』酒屋の商売そっちのけに酒を飲み歩く兄弟（池原和樹・牧野蓮）を、酒店に居ついた酒の神がたしなめる。が、その内に自分もつい酒を飲んでしまい、後は落語ネタへと暴走する舞踊劇。

畑　聡の酒の神が鍾馗（しょうき）を連想させる立派さで、怪演？快演？タイトルは『黒田節』の歌い出しの文句だが、それが何度もリピートされる可笑しみから始まり、兄弟の愛嬌あるセリフ。そして、どこかで聞き覚えのある邦楽や替え歌等々をうまくアレンジしての滑稽ぶり。ここに使用された邦楽の元ネタや、酒肴ならぬ趣向を理解しながら見られたら、面白みが倍増する仕掛けにもなっている。

喜舞劇 酒は廻る『酒は飲め々々』

『お江戸日本橋』

『弥三郎節』

『寿獅子』

休憩を挟んでの第二部はおなじみの民謡舞踊を集めた『故郷紀行 とうざいなんぼく』宮沢りか他の女性陣のしっとり陶然と酔わせるような『佐渡おけさ』の手振りから始まり、徐々に加速度を増してゆく構成。みちのくの民謡から山鹿の精霊まつりなどと、江戸端唄の粋との対比、コミカルな『弥三郎節』（枝木茂他）があれば伊予宇和島の荘重な踊りが対峙等々を見せ、最後に大勢の大漁祝いや『どや節』など、回転やスピード感あふれる躍動で、観客の気分を高揚させてくれた公演となった。

『どや節』